

デジタル絵本に独自の教育効果を発見

4 歳児、ひらがなの読みを促進

概要

4 歳児 15 名に「たなばたバス」という絵本のデジタル版を 6 日間にわたり、毎日 2 回、計 12 回の「よみきかせ」を経験させたところ、読めるひらがなの文字数が平均して 3 文字増加した。他方、従来の紙媒体の絵本で「よみきかせ」を行った別の 15 名では、そうした学習は起こらなかった。デジタル絵本による、独自の教育効果の可能性が示唆される結果が明らかになった。

1. 背景

デジタル書籍の子どもへの影響については、欧米では議論が沸騰している。アメリカでの 3500 人を対象とした、大規模調査ではこどもの電子書籍愛好者は 2012 年から 2013 年までの一年間に 16% から 23% に増加した。専門家や研究者には、この変化について否定的な意見が大勢をしめる気配であるが一方、実証的な研究は皆無でありまた、いったん動き出した時代の流れをとめることも困難であると考えられる。

2. 研究手法・成果

アイパッドにダウンロードされた「たなばたバス」を母子で 6 日間、連続して体験したところ、こどものよめる、ひらがなの文字数は体験以前にくらべて、平均して 3 文字増加した。印刷された絵本の「よみきかせ」を経験した子どもではこういう効果はみられなかった。ただし、用いられたデジタル絵本はただ単に、印刷物をデジタル化したものではなく、ストーリーがプロのナレーターによって、ナレーションとして流れ（ナレーション機能）かつ、読み上げられる文字がその都度、画面上で赤く彩りされる（ハイライト機能）ようにプログラムされたものであることで、印刷された絵本にはない特徴をそなえている。



3. 波及効果

こどもの発達にとって、有益なデジタル書籍というものを開発していくうえで貴重な知見を提供する成果ではないかと、推測される。

4. 今後の予定

デジタル絵本での読みの学習は、はたして「書く」ことの習得にも影響をおよぼすのか、検討する予定である。